

早稲田大学大学院政治学研究科 博士学位申請論文の要件

(1) 形式要件

- 1) 論文の一体性
 - ① 原則として、博士論文全体で一つの研究課題についての探求が試みられていること。
 - ② すでに公刊されているかどうかにかかわらず、個別論文の寄せ集めの論文集ではないこと。またそのような個別論文が、そのまま博士論文の一部を構成していないこと。ただし、公刊済みまたは公刊予定の論文の内容が、修正の上で博士論文の中に組み込まれ、その一部を構成することはできる。
- 2) 論文の構成要素
 - ① 序章・本論・結論という構成を備えていること。
 - ② 序章において、以下の項目についての言及があること。
 - a. 博士論文において解答を試みる問題は何か。
 - b. 研究課題に関わる先行研究の批判的検討と博士論文の位置付けはどのようなものか。
 - c. 博士論文のどのような独創性がどこにあるのか。
 - d. 博士論文の研究に利用した研究方法はどのようなものであるのか。
 - ③ 結論において、序章で設定された問題に対する解答の試みが示されていること。
 - ④ 脚注または巻末注が適切に示されていること。
 - ⑤ 参照文献リストが示されていること。参照文献リストは、Selected Bibliography ではなく Full Bibliography であること。
- 3) 論文の分量
 - ① 博士論文の分量は、200,000字以下であること。(参照文献リスト・補遺をのぞく)
 - ② 分量の下限は設けないが、研究課題に鑑みて不相応に少なくないこと。

(2) 実質要件(論文の内容にかかわる要件)

- 1) 申請者自身の研究の成果
博士論文は、申請者自身による研究調査に基づく成果でなければならない。課程博士の場合は、その研究調査の大部分が、博士後期課程において指導を受けた期間中になされたものでなければならない。
- 2) 研究の意義
博士論文は、その研究課題について顕著な貢献をなすものでなければならない。
- 3) 独創性
博士論文は、新たな事実の発見や既存の研究の批判的発展などによる独創性が具備されていなければならない。またその独創性を示す根拠が提示されていなければならない。
- 4) 論文の一体性

博士論文は、原則として全体として一つの研究課題について探求された一体性のあるものでなければならない。

5) 先行研究の批判的検討

博士論文は、その研究課題にかかわる先行研究についての批判的検討に基づくものでなければならない。また、どの部分がどのように先行研究を凌駕しているのかについて示していなければならない。

6) 研究の方法の明示と妥当性

博士論文では、どのような研究の方法が用いられたのか、明示されていない。またその方法は当該研究課題の研究に妥当なものでなければならない。

7) 論旨の一貫性と整合性

博士論文に示された議論は、一貫した整合的な論理構成を備えたものでなければならない。

8) 分量

博士論文は、その研究課題に相応した適度の分量を備えていなければならない。

9) 他者の業績への言及

博士論文では、その作成に際して利用した他者の業績への言及が適切になされていない。

10) 出版可能性

博士論文は、若干の修正を施すことによって、その全部または一部を出版することができるものでなければならない。

以上